



～ 校訓 学ぶ喜び そして自立へと ～

2 学期が始まりました

2 学期は、他の学校より少し早い8月27日から始まりました。今年の夏休みは、地震や集中豪雨など「自然の驚異」を実感させられた夏休みでした。久しぶりの学校では、夏休みの思い出を話し合いました。9月も雨の日が多く、晴れ間が待ち遠しいですね。

2学期は、11月14日（土）に文化祭（六星祭）が本校で開催されます。キッチンカーも出店し、楽しい企画もあります。たくさんの人に来てもらえるよう、協力して準備を進めていきましょう。また、季節の変わり目なので、健康管理に気をつけて過ごしましょう。

「ひらく」展



令和8年8月24日（月）～26日（水）けやきウォーク前橋のけやきホールにおいて、作品展が開催されました。前橋市内の学校の児童生徒の作品の他に、本校の幼児児童生徒が授業で制作した絵画・デザイン作品も展示しました。



9 月 1 日は防災の日

1923 年（大正 12 年）9 月 1 日に起きた関東大震災の教訓から、防災意識を高める日として制定されました。台風による大雨災害に備え、日頃から防災情報の確認や避難場所、避難経路の確認を行いましょう。「ぐんま大雨デジタル避難訓練2026（台風編）」に参加してみましょう。→右の2次元コードからアクセスできます。

保健室にも確認カードがあります。確認してみてください。



交流学習・オンライン交流、学校間交流について



本校では交流学習に積極的に取り組んでいます。全国的に盲学校（視覚特別支援学校）の幼児児童生徒数の減少が進み、本校でも一人学級が多くなっています。そのため、**学校間交流や居住地校交流**を推進しています。幼小学部では、聾学校と学校間交流、千葉県立千葉盲学校や茨城県立盲学校、埼玉県立埼保己一学園とオンライン交流、中学部では前橋市立第一中学校との学校間交流を実施予定です。高等部は関盲連生徒会活動で関東地域の学校とオンライン交流をしています。

9月18日は開校記念日（校長先生のお話より）

群馬県立盲学校は創立121年になりました。創立は1905年、明治38年の9月18日です。盲学校は当初、1904年にあった日露戦争で目が不自由になった人のために創立されたと言われています。最初は7名の生徒からスタートしました。その22年後、昭和2年に今のこの場所に引っ越してきています。当時、学校の周りはほとんど田んぼでした。昭和2年は、初等部（今の小学部）と中等部鍼按科（ちゅうとうぶしんあんか）という学部があり、高等部はまだありませんでした。その代わりに中等部鍼按科という学科で、6年間学んで卒業となっていたようです。初等部の勉強の内容は、修身（今の道徳）・国語・算術（算数）・歴史・地理・理科・唱歌（今の音楽）・体操・手工という科目でした。特に今はない手工という科目で学ぶことは、簡単な細工と書いてありました。また、高学年の女子は、その手工という時間で裁縫手芸を行うと書いてありました。中等部鍼按科は、初等部と同じように修身（道徳）・国語・数学・理科・唱歌・体操、それ以外に医事要項・鍼按実習、そして女子生徒のみ家事及び手芸という内容でした。今の専攻科で学ぶ内容の一部を中等部で学んでいたようです。今と違って昔は、日々の生活と関係のある内容も多かったように思います。その後、学部や学科が徐々に増えました。

また、盲学校の開校から30年が経つ頃の昭和9年、皆さんが食べている給食が始まりました。ただし、最初は今とは少し違って、おかずのみでした。主食のご飯やお芋は、児童生徒が家から持ってきていたそうです。初めての給食の内容は、煮魚・野菜の煮付け・漬物だったようです。

（出典「群馬県盲教育史」）

FMぐんま「行け湯け！国スポ・全スポ」ゲスト出演

9月22日（火）11:30～12:00 高等部普通科2年中島徹平さんとガイドランナーの三宅涼太先生がFMぐんまの番組にゲスト出演しました。生放送形式にて、パーソナリティ内藤聡さんや榊原アナウンサーに、走り始めたきっかけや練習での様子、10月に青森で実施される全国障害者スポーツ大会への抱負など、楽しく話してくれました。



ホームページ“もー”見て



群馬県立盲学校ホームページ